

市民と議会の 意見交換会

龍ヶ崎市議会報告会2024



市民と議会の意見交換会 タイムスケジュール



第一部

議会報告会

10:30～10:40

- ・挨拶 & 出席議員紹介

10:40～11:00

- ・議会報告



第二部

意見交換会

11:00～11:50

- ・市民の皆様との意見交換

議会報告会

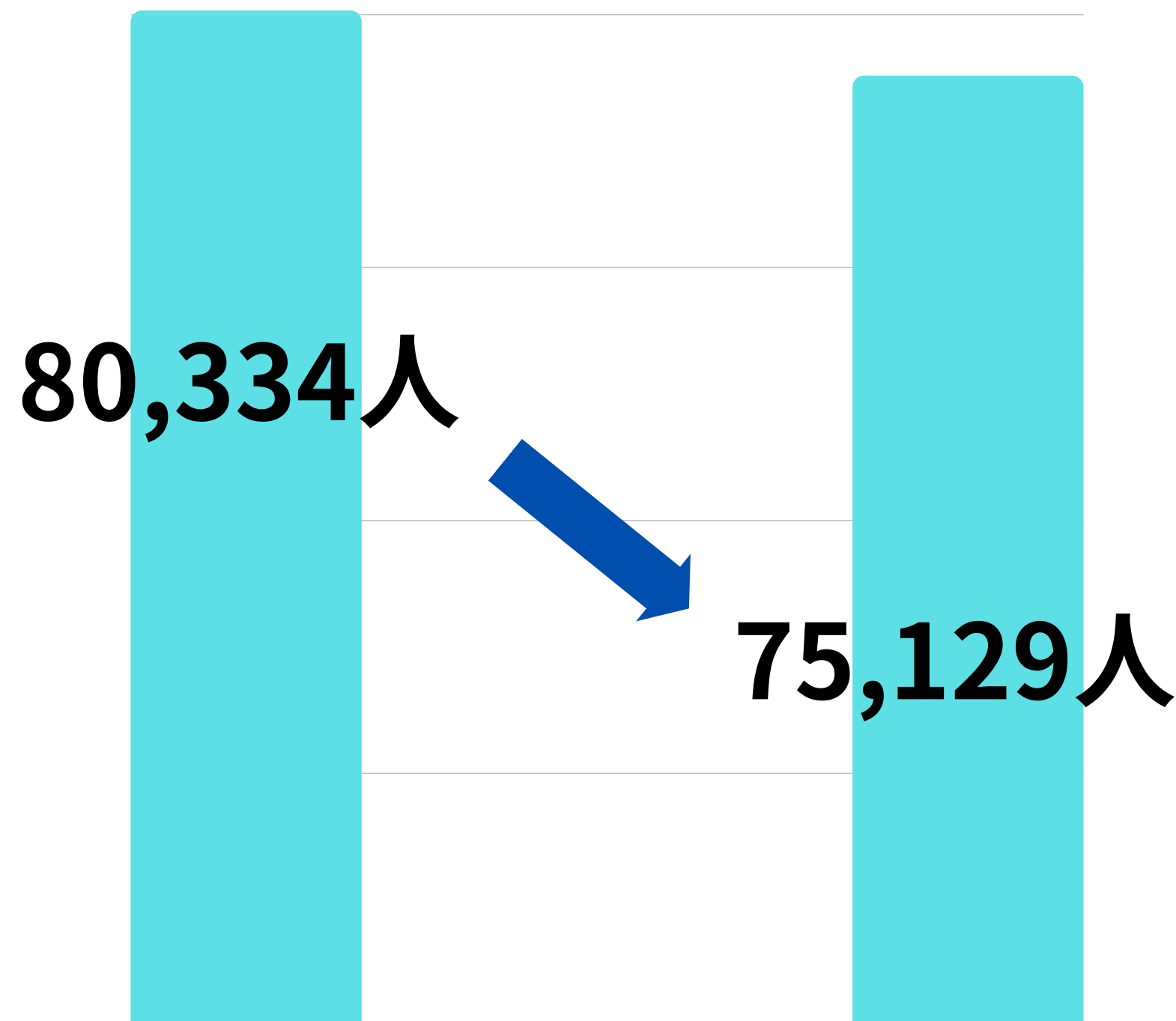
子育て支援と人口減少問題

龍ヶ崎市議会

当市の人口減少の現状

当市の人口減少の現状

龍ヶ崎市の人口は、2010年の80,334人をピークに減少に転じる



ピークから14年が経過し

5,205人

の人口が減少！

当市の少子化の現状

当市の少子化を示すデータ、下記の3つがポイントです。

01. 合計特殊出生率

0.98

- 市は国・県を下回る水準になっている
- 25～39 歳女性の年齢階級別出生率が低い

02. こどもの人数

4,234

- 2024年の0～9歳のこどもの総人数は4,234人
- 2010年から2,777人、4割のこどもが減少

03. 出生数

340

- 2023年の出生数は340人
- 2010年の620人から約半分に
- 社会増により同年齢の子は増加傾向

人口減少、当市の現状と課題は？

- ✓ ピークから5,000人以上の減少：自然減が多い
- ✓ 合計特殊出生率が低い：国や県の平均を下回っている
- ✓ こどもの人数の減少：14年間で約4割こどもが減った
- ✓ 1年間で生まれるこどもは340人：25～39 歳女性の出生率が低い



当市の人口減少は、他自治体より少子化の影響が大きい。
この課題解決のため、少子化対策ワーキングチームを設置。

少子化対策ワーキングチームの取り組み①

令和6年4月より、少子化対策ワーキングチーム（全議員）を設置し、少子化対策や子育て支援施策について調査研究を行っています。



取組内容①

専門家による講演会

流通経済大学共創社会学部の佐藤純子教授をお招きし、若者や子育て家庭が抱える課題、行政が取り組んでいる施策の分析を踏まえ、それに対して必要な施策などについてご講演をいただきました。

少子化対策ワーキングチームの取り組み②



取組内容②

市役所担当課との意見交換

龍ヶ崎市役所人口問題対策室や子育て支援などの担当職員と、数回に分けて意見交換を実施しました。

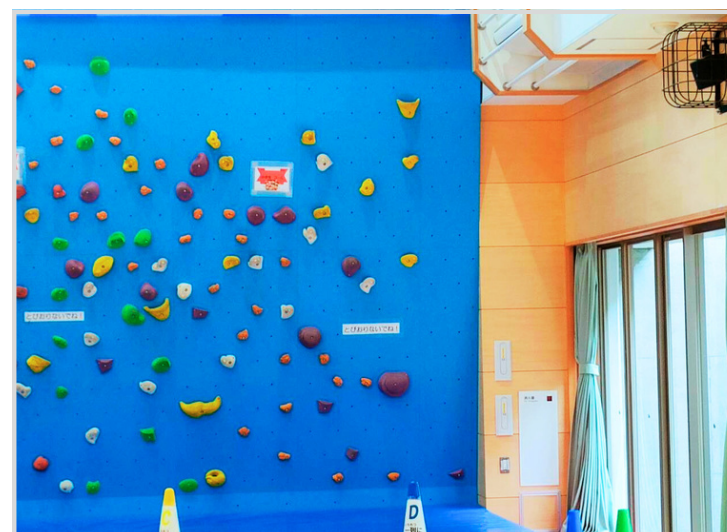
少子化対策ワーキングチームの取り組み③



取組内容③

先進自治体視察

11月11日に千葉県野田市と松戸市を視察。2022年にオープンした『のだしこども館』や松戸市のマイ・サポート・スペース（子育て支援センター）等の先進事例を調査しました。



のだしこども館

龍ヶ崎市議会 「子育て支援に関するアンケート」

B *I* U ↺ ↻

龍ヶ崎市議会では、少子化問題の課題解決のため、少子化対策ワーキングチームを設置し、少子化対策・子育て支援等の調査・研究を行っています。その結果を踏まえ、市に対して提言を行うことを予定しています。そこで、子育て中の市民の皆様の声を提言に活かしていきたいと考え、子育て支援に関するアンケート調査を実施します。是非ご協力をお願いいたします。

(問い合わせ先) 龍ヶ崎市議会事務局 0297-60-1566

問1 回答される方の年齢をお答えください。

- ☐ 18歳～24歳
- ☐ 25歳～29歳
- ☐ 30歳～39歳
- ☐ 40歳～49歳
- ☐ 50歳～59歳
- ☐ 60歳以上
- ☐ 回答しない

取組内容④

アンケート調査の実施

9月4日～9月23日まで、インターネットによるアンケートを実施。小中学生の保護者が利用している連絡アプリ『スクリレ』で主に募集し、550件のご回答をいただきました。

アンケートで寄せられたご意見

施設面

- 児童館がなく、放課後に安心して利用できる施設がない。
- 夏は暑すぎて公園にはいられない。学童では、暑くてずっと室内に籠りきりで運動不足。
- 雨天時でも室内で、放課後や休日に友達と遊べる場所が学区内にほしい。

金銭面

- 子供にかかる実費が多く、子供を欲しいが踏みきれない。
- 教育費、医療費、金銭面での不安。
- お金が足りず、満足な教育、習い事をさせてあげられない。
- 高校生まで支援して欲しい。高校生もお金はかかります。

小児医療

- 小児科が少ない、小児科を受診しにくい曜日や時間帯がある。
- 夜間救急で小児科の対応をしてもらえない。

少子化問題に対して重要な解決策の一つである子育て支援に的を絞り、
調査研究を重ね、子育て支援に関する提言を市長に行いました！



提言内容

妊娠から出産、子どもが成長するまで継続した
子育て支援を中長期的な視点をもって推進すること。

こども家庭センターの設置にあたっては、
母子保健機能と児童福祉機能の一体的支援を
効果的に実施できるよう運営の充実を図ること。

子どもの居場所をさらに充実させるため、
新たな拠点の整備を検討すること。

議会からの提言①

○妊娠から出産、子どもが成長するまで継続した子育て支援を
中長期的な視点をもって推進すること。

市民の声

- つぼみ園の空きがない。小学校高学年～中学生までが通える施設が必要
- さんさん館のような子育て支援が3歳以降いきなりなくなる
- 気軽に子育て相談出来るところが欲しい。



取組例

- 訪問支援の充実
- 障がいのある子どもへの支援
- さんさん館の土日開館
- ファミリーサポートセンター、リフレッシュ保育事業の拡充

子育て家庭の孤立化を防ぎ、安心して子育てできる環境を整える

- こども家庭センターの設置にあたっては、母子保健機能と児童福祉機能の一体的支援を効果的に実施できるよう運営の充実を図ること。

こども家庭センターとは？

- すべてのこどもとその家庭、そして妊産婦に対して、切れ目のない支援を提供する新しい公的機関
- これまでの支援体制が、母子保健と児童福祉で縦割り行政となっていたものを一元化し、一体的な子育て支援を行う拠点



取組例

- 相談窓口のワンストップ化による相談体制の充実
- 情報の一元化による、様々な子育て支援の一体的な提供
- 関係機関との連携による包括的な支援ネットワークの構築

子育て家庭が抱える様々な問題を早期に発見し、適切な支援を提供する

○子どもの居場所をさらに充実させるため、
新たな拠点の整備を検討すること。

市民の声

- 暑い日、雨の日に遊ぶ場所が無い
- 児童館がなく、放課後の子どもが安心して利用できる施設がない
- 人間関係が希薄、ママ友を作りにくい、孤独
- 子供が4歳時に転入。子育て情報が全く手に入らず。子供を遊ばせながら親も学べるような、誰かと出会えるようなイベントがあったら嬉しい



取組例

- 0歳から18歳までのすべての子どもが安全に安心して過ごせる居場所の設置（児童館等）
- 子どもや若者、保護者の相談体制の充実
- 親同士が交流し学び合うための学習プログラムの検討

自宅や学校以外の「子どもの居場所」を作り、親子の幸福感を高める

少子化・人口減少問題への取り組みは

今回の提言で終わりではなく、

今後も、引き続き行っていくきます。

また、当市には様々な課題がありますが、

市民の皆様の声をもとに、課題の解決にむけて

政策提言し市政をリードする議会をめざします。

市民と議会の意見交換会

皆様の声を聞かせてください

龍ヶ崎市議会